

## オーストラリア北部アーネムランドの「野焼き」による景観管理

### ①アーネムランドの概況

アーネムランド(Arnhem Land)は、オーストラリア・北部準州(Northern Territory: NT)北東部に位置する約97000 km<sup>2</sup>の土地である。この土地は、1976年に成立した土地権利法(Aboriginal land Rights [Northern Territory] Act)に基づき、伝統的土地権利者に返還され、北部土地評議会(Northern Land Council: NLC)が土地権利者の代表として外部者との交渉を行っている。

アーネムランドの気候は熱帯サバナで、砂岩を覆う植生の多くはアカシア属(*Acacia* spp.)やアステロミルトゥス属(*Asteromyrtus* spp.)などの灌木にユーカリなどの樹木が点在する疎林である。比較的厚い砂質土のある地域には、ユーカリ疎林が広がる。雨の多くは11月から4月にかけて降り、年降水量は1000—1200 mmである。

アーネムランドには、2007年時点で16230人(Australian Bureau of Statistics 2008)が暮らしている。域内には人口が100を超えるコミュニティは12しかないが、その周辺には多くのアウトステーション(アボリジニの小集落)が散在し、アボリジニの自治組織がコミュニティ運営にあたっている。

### ②アボリジニと野焼き(bush fire)

アボリジニは、オーストラリア大陸にやってきた5—12万年前から、野焼きを行ってきたといわれている。一般に、彼らの行う野焼きは、乾季のはじまりに行われる。多くの場合、最初は他所よりも少し小高い場所に位置する草地に火をつけ、乾季が進むにつれて乾燥する湿った草地に火をつける。このような野焼きは小規模なもので、結果として、燃やされた場所と燃やされていない場所からなるモザイク化した環境を創る。

野焼きを行ってきた理由としては、火入れによって獲物を藪から追い出して捕獲することや、火入れ後、そこに生えてくる新芽を食べにくるカンガルー類(Macropod)を捕獲することなどが挙げられている、と説明されている。こうした、火を用いたアボリジニの土地管理方法は、ファイヤー・スティック農業(fire-stick farming)、あるいは、ファイヤー・スティック牧畜業(fire-stick ranching)などと呼ばれている(Murphy and Bowman 2007: 238)。

### ③アボリジニによる野焼きが熱帯サバナの生態系に及ぼす影響

アボリジニによる野焼きの生態学的な意義については、1960年代末にJones(1969)によって指摘されて以来、多くの人類学者や生態学者が指摘している。たとえば、小規模でコントロールされた野焼きは、定期的に燃やされる地域と、燃やされない地域とのモザイ



図 アーネムランド(Arnhem Land)

出所: nomadart

<http://www.nomadart.com.au/locations.php>

クを創り出し、アボリジニの野焼きが行われなくなることで地域的な絶滅の危機に瀕している多様な動物種の生存を可能にしている、と考えられている (Murphy and Bowman 2007).

また、定期的な野焼きにより地表部に枯葉が堆積することが妨げられ、乾季の後半に発生する自然発火による野火が大規模な山火事に発展することを防ぐ効果があると指摘されている。特にユーカリの葉には、殺虫成分が含まれていて微生物による分解が行われにくく、コントロールされた定期的な火入れがなければ、熱帯サバナの生態系に破壊的な影響をもたらしかねない広範囲にわたる大火を招く恐れもある (Yibarbuk et al. 2001).



写真 野焼きによる土地管理  
出所: Cochrane (2005: 9)

#### ④野焼きを用いた新たな自然資源管理

このように、火入れがオーストラリアの熱帯サバナの生物多様性保全にとって重要な役割を果たしていることが評価されるにつれ、アボリジニの人たちによる野焼きを奨励する取り組みが進められている。例えば、西アーネムランド中央台地のように、人口減少によって野焼きが行われなくなった地域では、土地管理プロジェクトの実施組織 CFC (Caring for Country) ユニットが、ノーザン・テリトリー野焼き委員会 (Northern Territory Bushfire Council) や周辺のアボリジニ組織の協力を得て、火つけを再開する取り組みを進めている。また、熱帯サバナ共同研究センター (Tropical Savanna Cooperative Research Centre) と共同で航空写真や衛星画像を用いて、伝統的な野焼きの生態学的影響をモニターするなどの活動を進めている。野焼きでは、アボリジニのレンジャーが重要な役割を果たしており、野焼きによる土地管理はアボリジニの雇用対策としても重要な意味を持つ。

#### 参考文献

Caring for Country. [http://www.nlc.org.au/html/care\\_menu.html](http://www.nlc.org.au/html/care_menu.html)

Cochrane, M.J. 2005. The Djelk Ranger Program: An Outsider's Perspective. Working Paper No. 27/2005, Centre for Aboriginal Economic Policy Research, The Australian National University.

Jones, R.J. 1969. Fire-stick farming. *Australian Natural History*, 16: 224–228.

鎌田真弓. 2005. オーストラリア先住民族によるランド・マネジメント:アーネムランド、カカドゥ国立公園、ニトゥミラック国立公園. *NUCB Journal of Economics and Information Science*, 49(2): 119-135.

Murphy, B.P. and M.J.S. Bowman. 2007. The interdependence of fire, grass, kangaroos and Australian Aborigines: a case study from central Arnhem Land, northern Australia, *Journal of Biogeography*, 34: 237–250.

Yibarbuk, D., P. J. Whitehead, J. Russell-Smith, D. Jackson, C. Godjuwa, A. Fisher, P. Cooke, D. Choquenot and D.M.J.S. Bowman. 2001. Fire ecology and Aboriginal land management in central Arnhem Land, northern Australia: a tradition of ecosystem management. *Journal of Biogeography*, 28: 325-343.